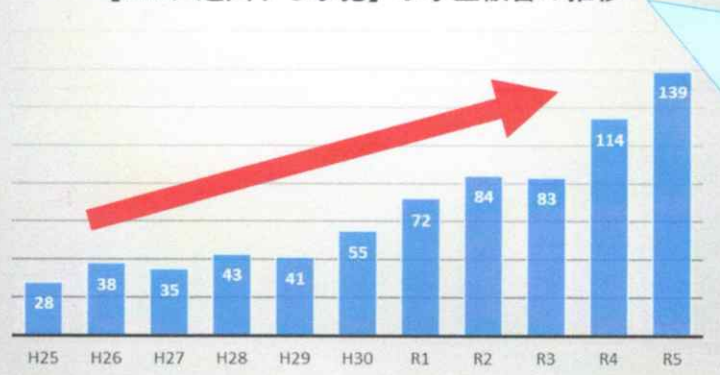


② 実際の被害状況は？

※“児童”：18歳未満の者を指す

※『少年からのシグナル』（警察庁）より。数値は、全国のデータ。

【SNSに起因する事犯】小学生被害の推移



令和5年におけるSNSに起因する事犯の被害児童数は1665件であり、依然として高い水準で推移しています。特に**小学生の被害が10年前の5倍近くに大幅増加**しており、インターネットデバイス利用の低年齢化と、フィルタリング等の利用が十分でないことが考えられます。

また、児童ポルノ事犯の加害者（被疑者）の年代別割合は、**10代が最多**です。他人事と思わず**被害者にも、加害者にもならないように**に注意しましょう。

※この数は、警察が把握している数です。実際には、もっと多い（多くなっている）と考えられます。

③ じゃあ、どうすればいいの？

(1) 『フィルタリング』をスマートフォン等に適宜導入しましょう



知識が不十分なうちは被害に遭いやすい



子供を信用すること、被害に遭わないということは違います。犯罪被害は、子供側の問題以上に、子供を狙う加害者側に大きな問題があり、その**加害者から子供を守る（遠ざける）環境を整えることが大切です。**



フィルタリングは、子供が安全にインターネットを使い、保護者が安心して見守るための機能・サービスの総称です。

制限は、段階的に調整や個別設定（カスタマイズ）できるので、子供の成長に合わせた見守りが可能です。



NTT docomo



au



Soft Bank



Rakuten Mobile

「フィルタリング」や「機能制限」を使って、リテラシーが不十分な子どもの危険を回避



「犯罪被害に遭った子どものうち、9割以上がフィルタリングを利用していなかった」という警察庁の調査結果もあります。また、「フィルタリングサービスを利用していない人は、家庭内ルール作りやペアレンタルコントロール機能も利用していない」という調査結果*もあります。

*…総務省「我が国における青少年のインターネット利用に係るフィルタリングに関する調査」2021年

(2) ペアレンタルコントロール から、段階的なセルフコントロールへのためにも「見える化」をしましょう

- ☐ 利用料金（明細書）を見る。利用は無料ではありません。（誰の支払いかも自覚）
- ☐ 利用状況（時間）を確認する。（機能でグラフ化されているのを見る、など）
- ☐ ルールが守れたか振り返り、守れなかったら改善を話し合う。（お互いの気持ちを見る、子どもの心を見る、保護者の気持ちを伝える、など）

※ 漠然と問題なく管理できる、と思わずこの機会と一緒に考えてみませんか。

(3) 子ども→「何かあったらすぐに相談」保護者→「相談しやすい関係づくり」を心がけましょう



ぜひお子さんと一緒にチャレンジしてください！
←詐欺から守る、知識をつける【安心スマホ検定】Y!mobile×警察庁

ぜひお子さんと一緒にご覧ください！
被害防止のためのマンガや動画を紹介【警察庁Webサイト子供の性被害対策】→

